

## 日本語版 EuroQol-5Dimension-5Level (EQ-5D-5L)

### 開発の経緯

EQ-5D-5L は、健康に関連した生活の質(Health-Related Quality Of Life: HRQOL)を定量的に評価することを目的に開発された EQ-5D(EQ-5D-3L)の測定感度の向上と天井効果を低減し、より幅広い対象の評価に適用できるように開発されました。EQ-5D-5L は通常の(プロフィール型の)HRQOL 尺度ではなく、質調整生存年(quality-adjusted life year: QALY)を算出するために主に使用される「選好に基づく尺度 (preference-based measure: PBM)」とされており、130 以上の言語版があり、世界各国で使用されています。

### 評価の方法

5 項目の記述式評価と Visual Analog Scale を用いた評価(EQ VAS)に大別されます。

記述式評価は自記式質問紙法で、「移動」「セルフケア」「普段の活動」「痛み・不快感」「不安・抑うつ」の 5 項目の健康状態を、それぞれ 5 件法(1.問題なし, 2.少し問題がある, 3.中程度の問題がある, 4.かなり問題がある, 5.極度の問題がある)で評価し、対象者が自身の健康状態を表していると感じる記述にチェックを入れます。各健康状態で選択した数値は、数式によって EQ-5D-5L Index に換算されます。-0.025 から 1.000 に分布する値が算出され、点数が高いほど HRQOL が高いと解釈されます。

EQ VAS は、垂直方向の線分で「想像しうる最高の健康状態」を 100 とし、「想像しうる最悪の健康状態」を 0 とし、対象者が自身の健康状態を表していると感じる数字を記録します。

なお、対象者本人が回答する自己回答方式と、医療関係者や他の代理人など本人ではない他者が回答する代理人回答方式があります。

### 信頼性、妥当性、解釈可能性

信頼性に関して、記述式評価の合計点の ICC(1,1)は、それぞれ外来患者で 0.82 (Sakthong ら, 2015)、整形外科術後患者で 0.75 (Conner-Spady ら, 2018)、癌患者で 0.77 (Kim ら, 2012)とされています。下位項目の  $r$ 係数は、外来患者で 0.48-0.61、癌患者で 0.36-0.64 とされています。

妥当性に関して、健常成人を対象とした基準関連妥当性が報告されており、EQ-5D-5L index は EQ-5D-3L の 5 項目それぞれと弱から強い相関関係( $\rho=0.45\sim 0.76$ )であったとされています(Mtyńczak ら, 2021)。入院脳卒中患者を対象とした記述式評価の構成概念妥当性は、mRS と弱から強い相関関係( $\rho=0.42\sim 0.79$ )、Barthel Index と弱から強い相関関係( $\rho=0.37\sim 0.77$ )であったとされています(Golicki, 2015)。本邦では、高根ら(2019)によって急性期脳卒中患者を対象とした日本語版 EQ-5D-5L の構成概念妥当性が報告されており、FIM 運動項目の合計点との収束的妥当性(入院時:  $\rho=0.371$ , 変化量:  $\rho=0.536$ )が報告されています。

### 結果の活用方法

慢性期脳卒中患者を対象とした MCID は、記述式評価で 0.10、EQ-VAS で 8.61(Anchor based), 10.82(Distribution-based)とされており(Chen ら, 2016)、介入前後の変化量がこれらの値を上回った場合、臨床的に意義のある変化が生じたと解釈されます。EQ-5D-5L は、臨床研究や臨床で使用する場合も含め、ホームページ上で使用登録を行う必要があります(<https://euroqol.org>)。

## 使用例

Rodríguez-Hernández ら(2021)は、亜急性期入院脳卒中患者を対象に、従来のリハビリテーションにバーチャルリアリティ(VR)を併用した介入の HRQOL に影響する効果を RCT で検証しており、HRQOL のアウトカムに EQ-5D-5L を用いました。結果は介入群、対照群共に、介入後とフォローアップの時点でベースラインに比べ EQ-VAS の有意な改善を認め、群間の変化量では介入群に有意な改善を認めたことが報告されております。更に、記述式評価では各下位項目で効果検証を行っており、特定の健康状態に改善効果をもたらしたことを示唆しております。

【原典】 Herdman M, et al.: Development and preliminary testing of the new five-level version of EQ-5D (EQ-5D-5L). *Quality of Life Research*, 2011; 20(10), 1727-1736.

【日本語版EQ-5D-5L】 池田俊也・他: 日本語版EQ-5D-5Lにおけるスコアリング法の開発. *保健医療科学*, 2015; 64(1), 47-55.

令和 3 年 6 月 17 日作成 沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士 五十嵐達也